



To acknowledge the duty that accompanies every right"  
 Affiliated with the International Association of Y's Men's Clubs

# THE OSAKA CENTENNIAL

C/O OSAKA YMCA  
 1-5-6 TOSABORI, NISHIKU,  
 OSAKA, JAPAN

2009年12月 No.331  
 Chartered July 20, 1982

主 題 Y's THEME (2009~2010)	
センテニアルクラブ会長	: 『Onward Centennial, again』
東京セントラルクラブ会長	: 『一つとなって YMCAへ』
国際会長	: 『一つとなる力』
アジア会長	: 『夢みるアジア、愛するアジア』
西日本区理事	: 『すべてのいのちを大切に』
中西部部長	: 『元気はつらつ中西部』

クラブ役員	Officers
会 長	: 山中 秀男
副会長	: 新保 正秋
書 記	: 石津 雅人
会 計	: 中村 幸枝
メネット会長	: 山中 ちあき
Y連絡職員	: 鍛冶田 千文

## Biblical Message of November

「『目には目を、歯には歯を』と言われていたことは、あなたがたの聞いているところである。しかし、わたしはあなたがたに言う。悪人に手向かうな。もし、だれかがあなたの右の頬を打つなら、ほかの頬も向けてやりなさい。あなたを訴えて、下着を取ろうとする者には、上着をも与えなさい。もし、だれかが、あなたをしいて1マイル行かせようとするなら、その人と共に2マイル行きなさい」  
 (マタイによる福音書第5章 38 - 41 節)

## December Club Meeting

### 『EMC-C』

#### 12月 第1例会

日時: 2009年12月16日(水) 18:30~20:30  
 場所: ホテルグランヴィア大阪

司会: 山田 孝彦 君

- |   |          |
|---|----------|
| 1. 開会点鐘                                   | 山中 秀男 会長 |
| 2. ワイズソング                                 | 一 同      |
| 3. 聖句朗読                                   | 中村 茂高 君  |
| 4. ゲスト・ピジター紹介                             | 山中 秀男 会長 |
| 5. 今月の強調活動                                | 隅田 保 君   |
| 6. 連絡・報告・ニュース                             | 各メンバー    |
| 7. 晩 餐                                    | 一 同      |
| 8. アトラクション                                |          |
| ・ マジック 原義雄氏(米国奇術団体 SMC 所属 京都外大マジックサークル指導) |          |
| ・ クリスマスソング 全員                             |          |
| ・ プレゼント交換(1,000円相当の品物)                    |          |
| 9. 誕生祝い・ニコニコ献金                            | 一 同      |
| 10. 閉会点鐘                                  | 山中 秀男 会長 |
- 会費制 4,000円/1人

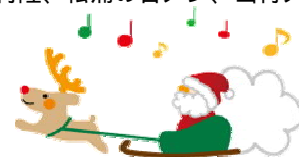
#### 12月 第2例会

日時: 2009年12月9日(水) 18:30~20:00  
 場所: 大阪YMCA土佐堀会館4F

12月お誕生日: 中村隆幸メン(26日)

### 例会担当

3班: 石津、隅田、谷川、中村隆、松浦の各メン、山村メネット



## 私の自然観

新保 正秋

私が住む茨木市は自然環境に恵まれた地域で、そこに児童・生徒数180名の大阪府立茨木支援学校があります。先日、学校の高等部の理科の授業で、校内の樹木や昆虫の調査を行いました。この樹木調査をした28科約46種の樹木267本の中で、もっとも多いベスト5は、ツツジ57本、エンジュ30本、サツキ19本、ソメイヨシノ18本、ナンキンハゼ12本です。次に昆虫では、19科67種の中で、チョウがもっとも多く、後はコウチュウ、トンボ、カメムシ、ハチと続きます。

さて私はほんの少し俳句に親しみをもっています。秋の句をいくつかあげてみますと、「夜ひそかに虫は月下の栗を穿つ」(芭蕉)「澄む月や髭をたてたるキリギリス」(其角)「蜻蛉や村なつかしき壁の色」(蕪村)「草の木も人にとびつく夜道かな」(一茶)。ちなみに私が小6の時に作った一句は「甲山ぼくの頭とうりふたつ」。ところで、2010年に生物多様性条約(CBD)第10回締結国会議が(COP10)、10月に名古屋で開かれます。「2010年までに生物多様性の喪失速度をはっきり減らす」という目標があり、それを検証する重要な年にあたります。  
 (次回は畠中彬さんです)

## 【クラブ統計 Statistics】

2009年10月	種 別	第1例会	第2例会	BFポイント	ニコニコ献金
在籍会員 18名	メ ン	14名	6名	11月 現金 手金 現 金 円	10月: 26,000円  累計: 123,200円
例会出席 14名	メネット	4名	1名		
うちメーキャップ 0名	ピジター	0名	1名		
	ゲ ス ト	1名	1名		
出席率 77.8%	合 計	19名	7名		

## 11月第2例会報告

日時：2009年11月25日（水）18:30～20:00  
場所：大阪YMCA会館4階

出席者：石津、大村、松浦、三浦、山田、山中の各メン、  
山中メネット、

### 報告事項

- 12月第1例会（クリスマス例会）の内容
- 1月例会の提案 IBC/DBC 藤原さん  
卓話「日本人と中国人 - 中国人とのつきあい方」  
三浦正治氏（前・羽衣国際大学学長）
- 2月例会の提案 TOF/CS/FF 畠中彬さん
- 3月例会の提案 EF/JWF 中村茂高さん
- 表コミとの交流会（鍛治田千文さん）  
12月11日（金）12:50～
- 中西部スペシャルオリンピック協力委員会委員に岡本剛介さんを委嘱。
- 12月第2例会は日程の都合で、12月9日に繰り上げ。
- 落語会 2月6日（土）、土佐堀YMCAで開催。  
チラシの作成、チケットの配布などに着手。  
(三浦 直之)

## チャリティーラン

11月23日（祝）、大阪城公園で、老若男女のたくさんの人を集め、恒例のチャリティーランが行われました。大阪センテナルも、関西テレビ青少年育成事業団の坂本さんと中島さんの二人の応援を得て、宣言タイムレースに出場。6分39秒差と、33チーム中、29位で成績はふるいませんでしたが、小春日和の中、とても気持ちのいい、有意義な一日を過ごしました。山田さん、山中夫妻、中村茂の4名が出場し、石津さん、大村さん、畠中さん、松浦さん、三浦さんの5人は大会の運営に当たりました。  
(中村 茂高)

山中 秀男 会長

山中 ちあき メネット



山田 孝彦 メン

中村 茂高 メン

頬を打たれる話も、下着を取られる話も、1マイルを行かせられる話も、同じ教訓です。「目には目を」という言葉は、ユダヤ教の教典であった旧約聖書に書かれた掟（おきて）です。復讐をそそのかす言葉だと、つい受け取られがちですが、実は恨みがエスカレートしてしまう人間性を見抜いた考えで、「自分の目を取られたら、相手の目を取るぐらいで許しなさい」という、現代の法律で言えば、損を受けた分だけ、損害賠償を受けるという考え方です。

それがイエスの教えでは、まったく違った、高い視点から人間のあり方を示しています。相手の右の頬を打つには、右利きであれば右手の甲で打つことになり、当時の慣習では最大の侮辱を意味していたようです。さらに、左の頬も向けよ、と言います。相手が与える痛みよりも、さらに大きな痛みを受けなさい、とイエスは説いているのです。

これは「弱者の論理」ではなく、相手の悪意の届かぬ自由で気高い精神と、隣人愛が必要です。イエスのこの教えに従うことは、よほど主体性をもった、積極的な生き方をしなければなりません。この教えだけでも、イエスの教えのすばらしさを痛感します。  
聖句選 コメント 中村 茂高

(次回は、松浦孝次さんです)

## 11月第1例会報告

日時：2009年11月18日（水）18:30～20:30

場所：ホテルグランヴィア大阪 21階

例年に比べ、この時期としてはあたたかい11月の第一例会を迎え、19人が参加。いつものように山中秀男会長の点鐘で始まりました。

谷川寛さんによる聖句朗読後、各メンバーから多彩な報告がありました。谷川寛さんによる10月末のマレーシア報告、また山中会長の2週間に及ぶロンドン滞在記など。

晩餐の後、司会大村肇さん紹介で、洋画家・川村賢二さんによる「鑑賞のための光と色」の卓話がありました。内容は芸術にとどまらず、人間の好みに関する深い洞察力を含んだ興味あるお話。



「輝度順応」 - 明るさに対する目の慣れ。人は時代とともに、また地域差により、色の好みが変わるそうです。昔、日本、また中世のヨーロッパに描かれた絵画は、ローソクまたはランプの光の中で描かれたもので、今の電球よりもはるかにルックス（輝度）が低い環境でした。浮世絵は行灯の光

で見るところから生まれた版画です。蛍光灯のハイルックスの中で生活している現代人にとっては、昔の人と色に対する感性は、大分違うようです。また、関西と関東では、色に対する認識も好みも違うとのこと。ちなみに太陽光は関西以西では2万ルックスだが、関東は1万ルックス。関西が明るい色を好むのに対し、関東は暗い色の合わせ方がうまいそうです。人間は生まれながらのフィルターを持っており、千差万別だそうです。

川村さんのお話の後、メンバーからの質問も多く、「岐阜で生まれた人間が他の土地で育った場合の色の認識はどうなるのか?」、「日本人が言う『ハダ色』は海外ではなんと言うのか」など、多方面に想像が広がる、とてもメンバーの関心度の高いお話でした。  
(中村 茂高)

11月3日の文化の日に、大阪YMCA会館で第9回とさぼりカーニバルが開催されました。当日は、今年一番の冷え込みで、朝から寒くまた、新型インフルエンザの影響が昨年より子供たちの参加者が少なかったようです。



寒い玄関での受付

一階ロビーでは、西船場の獅子舞に始まり多彩な音楽が演奏され、また即売展やゲームコーナーが開催され、10階と4階では、甘い香りと、中華の匂いが漂い食欲をそそる屋台が、YMCA生徒たちや、ボランティアグループの出店で賑わっていました。今年から、エコ運動の一環としてマイ食器持参を推進する為、食べ物の50円引きを実施しました。この運動に賛同して下さる参加者が多く、マイ食器を持ってこられる方が多かったようです。

4階では表コミの生徒の作品が展示されていました



1階ロビーの風景



センテニアルから石津、大村、中村(茂)、畠中、松浦、三浦、山田各メンと坂本、隅田、中村、山中各メネットの多くのメンバーが、寒い玄関での受付や、食器の煮沸作業、などカーニバルの運営をお手伝いして頂きました。2時半からの抽選会には、一階ロビーが人で一杯になり、抽選で盛り上がりカーニバルも無事に終了しました。

(大村 肇)

### とさぼりクリスマスのつどい

日時 12月7日(月) 18:30~20:00

場所 大阪YMCA会館ホール

内容 クリスマスハーモニー ~はじめて出会うクリスマス~

\* 大阪教会岡村 恒牧師のクリスマスメッセージと、食事と歓談、ページェント(降誕劇)

\* クリスマスは本来家族でイエス・キリストの生誕を祝うファミリークリスマスです。それぞれの家族、YMCAに集う私たちもファミリー。みなでページェントやクリスマスソングでお祝いするはじめてのクリスマスとの出会いです。今年は表コミ生は専門学校のクリスマス礼拝に参加しますので、このつどいは希望者のみの参加となります。

自立支援セミナー~発達障害のある人の思春期・青年期の支援を考える~

日時 1月30日(土) 12:30~17:30

場所 大阪YMCA会館ホール

内容 「発達障害のある人たちの思春期・青年期 - 心を寄せるということ -」「思春期・青年期を見据えた特別支援教育を考える」

イエス様の生誕をお祝いするクリスマスの季節です。ぜひ、教会にお越しください。

Tel.06(6441)1123 Fax...06(6443)7544

(鍛冶田 千文)



### Club Activities(November, 2009)

On November 18, the club's November meeting was held at the Hotel Granvia Osaka with a total of 19 Y's men, Y's menettes and guest in attendance. With its emphasis on "Public Relations & Wellness" this month, Y's man HAJIME OHMURA outlined the meaning and purpose of these programs.

Before the dinner, President HIDEO YAMANAKA and Y's man KAN TANIKAWA, respectively spoke about their recent experiences on their trips to UK and Malaysia.

Their interesting reports will be published in our next monthly Mail Magazine.

The highlight of the meeting was the speech made by Mr. KENJI KAWAMURA, noted artist of Western painting. Showing typical example of Ukiyoe, he told us how to enjoy paintings from the point of light and color.

What he told us was so interesting that many questions were raised even at the fellowship hour after the meeting.

Yen 26,500 was collected for our club's niko-niko (smiling) fund.



ニコニコ・メッセージ



【Messages from the Club Members】

会員からのメッセージ

絵画の話とても興味深く聴かせて頂きました。写真はパソコンを使って明るさや色合いを変更できますが、絵画はそんな事出来ないで難しいなあと感じました。

(石津 雅人)

川村先生の卓話を聞き改めて絵の鑑賞の仕方を考えさせられました。

(大村 肇)

明るさの話伺いながら思っていました、だんだん明るい所、太陽の下で顔を見られることがイヤになってきたことを。皆が綺麗に優しく見える光がいいな。

(鍛冶田 千文)

7年間使用していたパソコンをWindows7の新OSのパソコンに買い換えました。たいへん満足しております。

(坂本 哲朗)

絵画の話はとても興味深いです。いつか絵を習いたいと思います。

(坂本 千春)

今夕も楽しい例会で絵画鑑賞と光と色の関係についての卓話は大変興味がありました。

(田中 穰二)

今月はメンバー、メネットのみのこぢんまりした例会でした。これもまた楽しい一時でした。

(谷川 寛)

チャリティラン頑張ってください。

(中村 幸枝)

明るい光の下でこそ物は、はっきりと美しく見えると思っていたのですが、今後は暗さの中の美しさに目覚めたいものです。

(畠中 彬)

”災いは忘れた頃にやってくる”ことをまたまた経験しました。幸い大過に至らず感謝です。年と共に用心しないと...と痛感しました。メネット欠席すみません。

(福永 嘉彦)

冒頭、谷川さん、山中さんのセンチアルらしい国際色豊かなトピック紹介に始まり、いつものように楽しい例会となりました。ゲストの川村先生のお話は絵を描き始めた者にとって大変興味深く楽しく拝聴させて頂きました。

(藤原 正巳)

川村先生ありがとうございました。絵画について光の観点が大切な事はよく分かってはいましたが理論的に「照度」「色温度」という要素で見ると初めて学びました。特に地域差ということは考えても見なかったことでした。

(松浦 孝次)

川村画家のお話し、芸術の秋にふさわしく大変良かったです。中村茂高さんが潮岬にいたことを知り、私も同じ頃近いところに(新宮市)にいたので懐かしいです。

(三浦 直之)

「関西と関東では太陽光の強さの違いがあって、そこに生まれた人間はその環境の影響で色への反応が異なり自から出生によって感覚が決まっている。」と言われると関東で生まれて関西で育った人の感覚はどうなのか「なあ...?」

(山田 孝彦)

川村賢二画伯の卓話に感謝

(山中 秀男)

夫婦そろって元気で誕生日を迎えられ感謝!

(山中 ちあき)

絵の鑑賞の見方が深くなりました。

(山村 利子)



十二日に無事、元気な男の子が生まれました。両家にとって共に初めての待望の孫でしたので、家族全員大変感謝しております。感謝の気持としてニコニコを少しはずませて頂きました。

藤原 正巳

チャリティランは紅葉の大阪城公園で行われました



チャリティーランに参加したクラブメンバー



後記

チャリティーランでは、もちろん順位制でも宣言タイム制でも、勝つことに意義があるかもしれませんが、出場者中最高齢の、わがセンチアルの山田孝彦さんが2<sup>キ</sup>も走ったこと、いやずっと走り続けていることは、とてもすばらしいことだと痛感しました。事前に、トレーニングを積まれた、山中夫妻のがんばりにも頭がさがります。

子どもの学校内の暴力が問題になっているようです。ストレスや不満をかかえる人たちがいっぱいいる世の中なのでしょう。

11月の講演会の直後、朝日新聞の「ひと」欄にキムタクのお母さんのことが掲載され、某週刊誌に中傷するような記事が載りました。有名人の母であることが、こんなに大変なことなのか、と私も気の毒に思い知りました。そのお母さんが好きだという、相田みつをの詩を読み、その心情がよくわかる気がします。

「なみだをこらえて、悲しみにたえるとき、ぐちをいわずに、くるしみにたえるとき、いいわけをしないで、だまって批判にたえるとき、いかりをおさえて、じっと屈辱にたえるとき、あなたの眼のいろがふかくなり、いのちの根がふかくなる。」

とても心にしみる言葉です。なかなか私にはできません。

(中村茂高)